

いわみざわ男女共同参画マガジン

ア・ライク

ア・ライク (A'like) ~共に生きる~
<同様の・等しく>という意味を持ちます。

2013年 VOL. 11



コンテンツ

- 特集 市長インタビュー
- あ・らいくな人
- 女性のためのステップアップ講座
- 日本女性会議2012仙台に参加して
- 北方四島交流訪問事業に参加して
- TOPICS

特集 市長インタビュー



まつの きたる
松野 哲 昭和31年5月生 56歳

三笠市出身。
昭和56年北海道大学法学部卒。同年岩見沢市役所採用。
平成22年に企画財政部収納対策担当次長に就任。
市長選出馬の為平成24年7月25日に退職。
同年9月9日選挙で初当選を果たし、同日市長に就任。

実施日：平成25年1月31日 於：市長応接室

◆来年度の予算編成も終盤にかかっていると見えますが

予算編成で重点にしていることは、安全と安心の確保を大きな項目として挙げています。

それは、生活の質の向上をベースにしていこうと、次は福祉施策を体系的に見て、支援措置を洗い出し薄い部分に厚みをつけました。

もう一つは地域産業の活性化です。このキーワードは「自立」です。岩見沢市としてきちんと打ち出し、地域の活性化を考えると女性の果たす役割は重要だと捉えています。

予算の中で、形として打ち出したのは、「子育て分野」です。横浜市の例ですと、短期間のうちに待機児童をゼロベースにしています。そのこと自体議論がありますがそういった発想が大事だと思います。

岩見沢で生まれた子どもが、国の制度・市の制度を活用し安心して育てていける環境ができないだろうかと、生まれる前から切れ目のない子育て支援環境の充実、障がいのある子への早期療育体制の強化を予算に盛り込む予定です。

例えば「つみき園」は社会福祉協議会で障がいを持った子の保育を行っていますが、保健センターとの有機的な連携ができないかということです。

◆市長に就任されて、4か月が過ぎましたが、最初に取り組んだことは？

9月の選挙で「市役所を元気にしたい。市役所を改革するんだ」ということを訴え、当選しました。価値観を職員と共有し、市民のための仕事をしたと思っています。

市役所は500人以上の組織です。職員が同じベクトルを向いて働くと、効果の高い力を発揮することができますと考えています。

初登庁で最初に何をしたかといいますと、各職場を自分から回らせていただきました。「これから一緒に頑張っていこう」と職員の顔を見て伝えることができました。

◆岩見沢の人口状況はどうなっていますか？ また、その対応について

現状は合併後、人口が約1,000人ずつ減り、児童・生徒も170人ずつ年減減っています。2035年には6万5千人になるという大変ショッキングな推計値がでてきます。高齢化率は、年末時28.8%で全国と比べて高く、合計特殊出生率は1.30で低くなっています。

平成12年から生まれた人より亡くなる人が多く、自然減少しています。以前は社会増減でいうと、転入が多く緩やかに人口上昇していたのです。

合計特殊出生率が上がっても、全体が少ないと人口増には繋がらないのです。ではどうするか？生産年齢人口を増やすには市外から来てもらうことです。企業の誘致、新たな雇用を創出する取組みが重要です。

人口問題とともに教育もどうするかなど、多方面から検討した発想が大事だと思っています。

◆人件費抑制と3割自治とは

当市は、平成3年から人件費等は、定員抑制のほか、特別昇給制度を止めており定期昇給ベースのみで人件費の抑制を図っています。

日本の自治体は3割自治といわれましたが、岩見沢の収税は全収入の3割です。中央集権ですが、ナショナルミニマムをいって日本全国最低限度必要なことは行き届いています。

当市は82億円の収税と150億円の地方交付税が、歳入の大きな柱です。国の交付税や道の補助金等合わせると、大体500億円というところで。

昨年から比べると平成25年の交付税は4.6億円位減るなど財政運営は厳しさを増しています。

◆女性の社会進出の取組みについて

当市での保育所の待機児童はいません。何故女性の就業率が低いのか。景気が悪すぎるのか。働きたくても働けないのか。

住みやすい環境、子どもを産んで育てやすい環境や雇用の創出に取り組み、その中で女性に活躍してもらいたいと思っています。生産年齢人口の厚みがあれば経済効果が出ます。

経済活性化のためには雇用者を増やさなければなりませんよね。今の時代は、岩見沢市単独の努力だけでは難しい時代であることを実感しています。

今回IT関係として、自宅で作れる仕事、スモールオフィス・ホームオフィス形態での子育てや家事の合間で出来る仕事を新年度から取り入れました。

もう1点は「産前産後ヘルパー制度」を導入し、安心して当市で子どもが産めるよう使い易い総合的なケアができる体制として健康福祉子育て分野の充実を図ります。

学童保育についても、児童館の使い勝手を良くし、見守りシステムのICTagsの有効活用等も考えています。財政に余裕がないので少しずつ取り組みたいと思っています。



座右の銘

「人生はいつも青春」…

「青春というのは人生の特定の時期を指す訳ではなく、本人の年齢に関係なく好奇心と探求心と夢と希望があれば、それはその人にとっての青春なんだ」と思います。

「努力」…

市長になつてからは「努力」ですね。努力は継続したからといって必ずしも右肩上がりに結果が出る訳ではなく、ずっと成果が無くても階段を上るようにボンとでてきます。

だから「努力は継続しないと駄目」という謙虚な気持ちです。

◆岩見沢の基幹産業の農業対策は？

農業については、先を見据えた話ですが、水稲の作付は全道一、収穫量でも北海道のお米の半分は空知で作っています。空知のお米は全国のお米の約4%弱の生産になります。この数量を今後維持していくには、後継者問題が懸念されます。その結果、耕作放棄が考えられます。この対策として、農業生産法人化、大規模個人経営への集約支援を取り入れないといけないのではと考えています。

経営の効率化として、3月から農業気象情報システムの運用を開始し、市内13か所にセンサーを付け、農業者と契約し、有償で情報を提供します。成熟期、防除の時期などもわかります。具体例としては中国からの黄砂とともに運びこまれる「いもち病」の菌を、黄砂が来た翌日にそこで抑えてしまうことです。従来から比べると農業代が3割カットできます。

また位置情報を正確に捉えるGPSの活用により受信装置をトラクターや農機具に付けると女性やあまり経験のない人でも安全に作業が可能になり、作業効率をあげることができるなど、こういったことの導入を考えています。

◆市の防災の取組について

岩見沢市防災会議の組織委員は、全員男性です。男性が決め女性が手伝うのではなく、男女で決める取組みをどうするか、今後の課題としています。

就任3日目で水害が発生し、避難所には20名程の方々が避難されマットを敷き座っていました。数名でしたのでこのような環境で済みましたが、避難された方は自宅の事を心配していましたので、担当者には「必要な情報は出せるものを全部出すように」と指示しました。

今後は乳児からお年寄りのことまで考えた避難所の環境づくりが必要です。「必要なサービスは制約があるけれど受けられる」という環境づくりを改めて考えさせられました。この環境づくりとは男性だけではなく、女性とも連携を取り、その中で人の育成も図って次世代に繋いでいくことが必要なことと思っています。

◆コミュニティ支援について

まずは地域の需要を「直に聞くこと」が重要だと思います。各地域の事情は違います。例えば福祉サービス・コミュニティサービスも画一的ではなく地域の実情に沿った支援が大事です。

今年度の雪対策として弱者対策の助成措置をつくりました。自助・共助も動かないとしたら公助しかないので、そのことが冬の暮らしの安全を守ります。見守りも早めに2,556件を2回行い、調査と同時にその場で判断し必要な事はすぐに行うことにしました。

発想の転換をし、担当セクションがバラバラではなく全体を集約し指令系統を一本化した物事の打開が必要な時代だと思っています。



南部地区 清和連合町会長

いとう まさこ
伊藤 雅子 さん



昭和12年、岩見沢市出身。教員として空知管内10校程を巡り、岩見沢で教頭・校長を歴任。退職後地元の町内会に加入し地域活動に携わる。その後、文化副部長、文化部長、副会長を務め、平成23年1月より会長に就任し現在に至る。

町会長を受けた時の理由

人選に苦勞し、副会長が会長に…と押しつけられたような感じです。役員を引き受けて下さる方がなかなかいなく、一度役を引き受けますと辞めることが出来ず、今日まで続いているのが現状です。

とても重く私には出来ないとお断りましたが、“特に新しいことをしなくても良いので皆さんのお世話役をお願いします”ということで、断りきれずに2年が過ぎました。

印象に残っている活動や出来事は？

- 活動…敬老事業・花壇整備・交通安全・リサイクル収集・子ども会事業 その他…各種募金の協力・未加入世帯の町会加入の推進・南部会館の清掃協力等。
- 苦勞したこと…役員を選出 会員の高齢化に伴い引き受けてくれる人がいない、若い人は仕事を続けているので引き受けてくれないので大変です。
- 嬉しかったこと…花壇整備への協力や夏休みラジオ体操参加者増等です。

町会の今後の目標は？

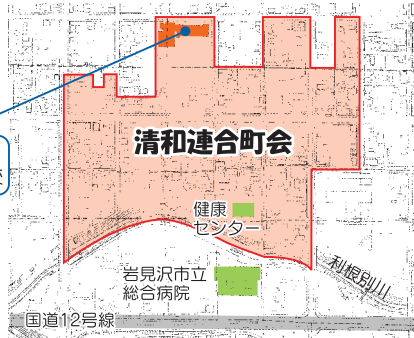
町会は14の単位町会で結成されている連合町会です。

それぞれの町会ごとの活動は進められていますが、連合町会として「地域住民の福祉と親睦の目的」に則し、どの様にからめていったらよいか案案しています。

男女共同参画についてどう思われますか？女性として苦勞されたことは？

かなりの場面で女性の進出も多くなってきていますが、この運動に対する市民の意識は（私を含め）まだまだ低いように思います。積極的な啓蒙も必要ではないでしょうか。

会長になってから女性としての苦勞は特に感じたことはありません。



避難所：中央小学校

加入世帯：188世帯

東日本大震災から約2年が経過し、地域の人と人とのつながりや、町内会（地域自治）の大切さが改めて見直されています。

岩見沢市では、現在218の単位町内会（自治会）が組織されており、6名の女性町会長も各地域において住み良い街にするために様々な活動を行っています。

地域で女性の会長として活躍しているお2人の方に話を伺いました。

緑が丘地区 南が丘町内会長

たにくち いくこ
谷口 郁子 さん



昭和19年釧路市出身。結婚後23年間会社に勤め経理を担当。学校PTA（副会長等）にも携わる。昭和55年から南が丘町内に住み始め、働きながら女性部長を務める。58歳で会社を退職後、会計部長、総務部長を務め、平成24年1月より会長に就任し現在に至る。

町会長を受けた時の理由

総務部長をしており、「自分でもできないだろうか？」と考えていました。そんな時、前会長の推薦もあり、主人に相談したところ、「自分でできると思うのなら一期だけ引き受けてみたら」と賛同を得て、決心しましたが、女性でもできるかな？…複雑な気持ちでした。

町内に30年以上住んでいましたので、自分がするとしたら反対者もなく、男性の適任者が年代的に探しきれなかったようでしたので決心いたしました。

印象に残っている活動や出来事は？

- 活動…
 - * 不法投棄対策のためゴミステーションの1基撤去とカラス駆除対策
 - * 町会未加入者の町会加入・未加入者からの共助金の協力
- 苦勞したことは、アパート入居者の共助金徴収とごみの不法投棄問題
- 嬉しかったことは、町会への再加入者が増えたことです。
- 楽しかったことは、地区協議会の行事にたくさんの方々に参加して下さり、みんなで活躍できたことです。

町会の今後の目標は？

30戸以上のアパートの入居世帯の町会加入と脱会世帯の対策、共助を思案しています。

今、頑張っている女性たちにひと言！

今はいろいろな情報が溢れていますが、自分をしっかり持ってもらいたいと思っています。

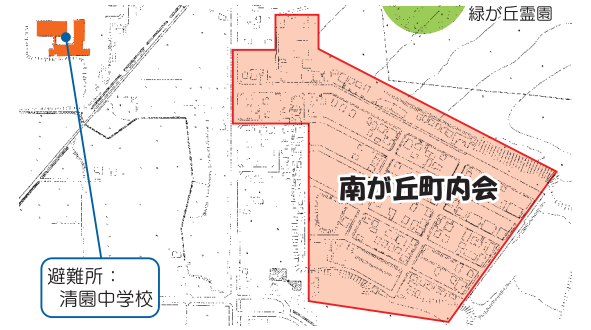
男女共同参画についてどう思われますか？女性として苦勞されたことは？

男性も女性も性別役割分担意識のない社会で共に助け合うということと捉えています。

現役時代は、女性の意見があまり通らなく、賃金は安い、出世はできないと感じましたが、今はありません。



加入世帯：109世帯（共助金協力世帯17世帯）



避難所：清園中学校

緑が丘公園

第5期 女性のためのステップアップ講座

女性のためのステップアップ講座も平成20年に始まり、今回で5回目を迎えました。受講生の皆さんは、講師の海外での体験談や専門的なお話しに、興味や関心を持ち、多岐に渡った講座に知識を広めました。日頃の生活に役立てていただける機会になったと思います。

10 / 17

「日本人の苗字と家系」 歴史考証家 岸本 良信 さん



誰もが持っている「苗字」の由来や家系調査の方法なども併せて講演していただきました。

受講者の苗字の中には珍名の方もおり、検索で分布図や都道府県のランキングが表示されると、会場内は大いに盛り上がり、みなさん自分のルーツが少し知れたのではないのでしょうか。

【受講者の感想】

自分のルーツを辿ったり、とても有意義で楽しいお話に少し視界が開けた感じがして、のんびり訪ねてみようかという気持ちになりました。まだまだ奥が深く、夢とロマンを感じるひとときでした。

因みに、日本の多い苗字のランキングは、1位：佐藤、2位：鈴木、3位：高橋、4位：田中、5位：渡辺 改めて、認識しました。

10 / 24

「予防接種の基礎知識」 岩見沢市健康福祉部看護師 中林 祐子 さん



乳幼児期の投与方法や、子宮頸がん、冬を控えインフルエンザ対策など、予防接種についての基礎知識講座でした。

【受講者の感想】

子供を育てた時代の知識しかなく最新の予防接種情報が聞けて良かったです。健康を維持していくために、知識として心しておきたいと思います。

10 / 31

「アンチエイジング講座 -自分でできる心と身体の掃除法-」 リンパドレナージュセラピスト 中川 文江 さん

身体や血管にゴミが溜まっていると、その部分が疾患につながるため、ゴミの回収役を果たしているリンパの流れをスムーズにしましょう！とオリジナルのセルフマッサージ方法を実践しました。



【受講者の感想】

「アンチエイジング」薬に頼らず、老化のせいにしないで、すべての老廃物排除“詰まりを流せ”大変素晴らしいお話を聞き感動しました。私も「若返り」に挑戦と努力を続けてみます。

“自分の身体に触ることは病気の発見にもつながるので、積極的に触るようにしましょう”と話していたので実践しようと思います。

11 / 7

「紅茶とお菓子のマリアージュ・おいしい紅茶を楽しむために」 講師：ティー・コーディネーター 有田 みち子 さん

サロン風のテーブルセッティングにクラシックのBGMが流れる空間で、みなさん持参のティーカップを片手に、紅茶の歴史・茶葉の種類・入れ方・ポットの扱い方・カップ＆ソーサーの名器、インテリアになる綺麗な茶葉缶・大きめなスプーン・銀座のお店・販売店等も紹介していただき、優雅なひとときを過ごし短い時間でセレクト気分を味わうことができました。



【受講者の感想】

手作りのお菓子と美味しい紅茶を2杯もいただき、幸せなひとときを過ごすことが出来ました。一流の演出を教えてくださいありがとうございました。

11 / 14

「本当のイギリス～イギリスに対しての誤解や勘違い～」 岩見沢市国際交流員 ジェヴォンズ・ミオ さん

日本人が抱いているイギリスのイメージは？イギリスで生まれ育った講師による現在の様子についてのお話は、私たちの生活に馴染みのある文化もあり、イギリスが少し身近に感じた時間でした。伝統あるイギリスの社会も現在は様変わりしていて、歴史の変化を知ることができました。



【受講者の感想】

前回(11/7)の講座と対比させながら聞けて面白かったです。お国柄の違いが見え、また、合理的な生活に様変わりしている現状の話に、どの国も同じなんだと思いました。

今回も昨年に引き続き参加された方や、幅広い年齢層の皆さんから申込をいただき、会場の都合上人数の制限もあり締切日前にお断りさせていただくほど応募がありました。少しずつ地域の人々にこの講座も浸透していることに嬉しく思う次第です。

閉講式後の茶話会では、受講生のみなさんと一緒にお茶とお菓子をいただき和気あいあいのなか、講座の感想や次回への要望など、沢山の意見交換をしました。

今後更に有意義な講座を企画するための参考にさせていただきたいと思います。

「日本女性会議 2012 仙台」に参加して

2011年3月11日14時46分、この日からすべてが変わってしまいました。地震、津波、原発事故による大震災に対し皆さんはどのように行動し、地域を支えたのでしょうか？被災後2年目の2012年10月26～28日、106万都市の仙台市「仙台国際センター」において全国から約2,100人も女性たちが集まり、女性会議を開催されたことはとても意義深いものであり、被災後3年目を迎え、復興の状況は今なお避難生活を続ける被災者がいる状況です。

この度被災地の状況を知る目的もありましたが、石巻市や陸前高田市などまで足を運ばなければ知ることはできず、空港や市街地だけでは被災の様子は一つ伺うことはできませんでした。

福島第一原子力発電所で水素爆発事故が起き、放射線被ばく問題や風評被害、今なお住民は苦しんでいて、先が全く見えないなか地域を離れる人、現在も迷っている人、家族が離れ離れになっている人、周囲の放射線量を確認しながら震災前の生活を取り戻そうとしている人などそれぞれが悩む日々を過ごしています。

そのような中、この女性会議が開催され、女性たちのさらなる力を引き出すことが必要であり、“ここからの復興は震災の前に戻るのではなく、より良い社会をつくりあげていくこと”と提案されたことに地域再生の難しさを実感してきました。



仙台市長と共に！

特別プログラム

今年の特別プログラムでは、5人の女性パネラーより震災の体験から現在までの報告があり、女性の力強さ・パワーを感じ、やれる事から始める実行力が必要で、自分たちが被災者でありながら被災者に寄り添い、精神的な支援はどれほど癒されたことでしょうか。

染みついた性別役割分担意識を解くために、活躍された女性たちから“やれる事から始める、それは積極的な実行力”と行動するロールモデルがあってこそと思いました。

第1分科会 (テーマ：復興・防災に女性の声を～出す・ひろう・生かす)

男女共同参画は日常の事ですが、非常時には日常の不均衡が大きく現れ、様々な場面において女性がリーダーとして活躍するためには女性が連帯し社会の意思決定の場に参画できる環境をつくるのが重要であります。

そういう環境を作ることができれば、地域住民による共助活動は2倍にも3倍にも効果が出るのではないかと感じました。

記念講演

31歳のノルウェー王国国会議員、アネット・トレッテバルグステューエンさんの講演で、震災から立ち上がりようとするには女性が変革の担い手になることが重要であると語っています。この方は12歳の時に人種差別問題で街頭デモに参加し、当時女性首相のブルントラント氏に触発され、13歳で労働党に入党し政治活動を始めた方です。

ノルウェーでは1979年に制定された男女平等法が基盤であり、現在国民の稼働率は男性79%、女性71%と殆ど差は無く、「パパ・クォータ制*」も導入しています。父親の20%が育休を取るなどして、出生率が1.96%とヨーロッパ1位となり、国会議員の中では40%の女性議員も活躍しています。

日本の国情においては女性の国会議員は衆議院10.9%、参議院18.2%で、世界190か国中130位。日本の合計特殊出生率1.39、岩見沢は1.30と低い数値です。ノルウェーの高い水準は長い苦労と活動の歴史があって現在の状況に至ったというお話がありました。

また、女性が家庭と仕事を両立させるには、保育園、育児休暇、労働法、クォータ制*といった制度整備が現在の状況を後押ししていることも指摘されていました。

法制の導入や男性の理解だけでなく、女性自身も変わらうとしなければ成果は得られないと学んできました。

※クォータ制：政治における男女間格差を是正するための暫定的な方策。議員・閣僚などの一定枠を両ジェンダーに割り当てる制度。
※パパ・クォータ制：1993年に世界で初めてノルウェーで制定。育児休暇の一定期間を父親にも割り当てる制度。ノルウェーの場合、育休（最長54週間取得可能）のうち12週間は父親のみが取得でき、父親が育休を取らなければ権利が消滅してしまう。

平成24年度第2回北方四島交流訪問事業に参加して



当市民会議員・男女共同参画いわみざわ会員でもある小笠原千伊子氏が、ビザなし交流に参加しましたので、貴重な経験を紹介します。

■日程 5月25日～28日(4日間)
■訪問地 択捉島(えとろふとう)

私は旧島民でも活動家でもありません。幼少の頃、明治2年生まれのお祖母が、昔話なのか本当の話なのか分かりませんが「大力(たりのり)ちゃちゃ」の思い出話がありました。

ある時、国後島の地図で爺爺岳(おやぢおやぢ)を見つけて以来、北方領土が私の記憶にとどまり、どんな島なのか見てみたいと思っていました。



住民交流
(絵手紙体験)

今回ビザなし交流で択捉島を訪問する機会を得ました。北方領土は近くて遠い島で、国後水道を超えるときは荒い波で船は揺れ、根室を出るとき日の丸だった旗が、択捉島内沖に着いた時は、ロシアの国旗が揚がっていました。

生活・衛生環境を見ると、返還されても今の日本人が住めるか疑問が残りました。施設見学や交流会を設けていただきましたが、欲をいえば墓参りをゆっくりしたいと感じました。

返還に関しては外交問題として国で交渉されていますが、今回の訪問を機に領土問題に関心をもち続けていこうと強く心に命じました。



択捉島(散布山)

訪問船「えとびりか」

■ 男女共同週間 街頭啓発

平成24年6月27日(水)

市民会議では、「男女共同参画週間（6月23日～29日）」に合わせ、ザ・ビッグ前において街頭啓発を行いました。

当日は、男女共同参画いわみざわ・空知総合振興局・岩見沢市との合同により、ザ・ビッグ前でチラシとごみ袋などの啓発用品を配布し、多くのみなさんへ男女共同参画への理解を求めることができました。

街頭啓発に参加して

市民会議のメンバーとして街頭啓発に参加させていただきました。

その時、男女共同参画週間について問いますと、「男女共同参画は知っているよ、何をしている会なの？」など、快く答えてくださるかたや活動に対してねぎらってくださるかたも多く、このような地道な活動が啓発につながることを実感した機会であり、私個人として啓発の理解が深められて今後も率先して参画しようと思いました。



■ 男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ 平成24年9月18日(火)

フォーラム実行委員会では、岩見沢平安閣においてテレビ番組「行列のできる法律相談所」でお馴染みの菊地幸夫弁護士を講師に迎え、講演会を開催しました。

講演は、「出会いの人生から学んだこと」をテーマに、自身が監督を務める地元小学生バレーボールチームでの体験を交え、大人・子供、肩書、性別ではなく、自分と同じように相手を尊重し、大切な存在として相手をみるというセンスを身に付けることが大切であり、隔たりをつくらず共に助け合う社会を目指す必要があると話されました。



今回初めて、開会前に北海道教育大学岩見沢校音楽コースのみなさんによる弦楽四重奏のアトラクションも企画し、アニメ映画の曲から本格的なクラシックまで多彩な曲目で、場内を魅了し講演に入りました。

今年は平日の午後の開催にも関わらず、市内外よりたくさんの方にご参加いただき、大盛況でした。ありがとうございました。



市民会議メンバー募集中

市民会議は男女共同参画をテーマに、岩見沢市と協働で様々な取り組みを行っています。

現在、一緒に活動していただけるメンバーを募集しています。活動は不定期で、メンバーそれぞれのライフスタイルに合わせて活動しており、年齢や性別などは問いません。どなたでも気軽に事務局までご連絡下さい。



編集後記



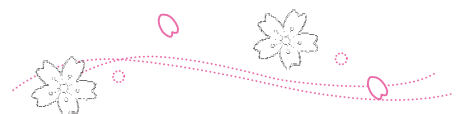
この度、「ア・ライク vol.11」を編集するにあたり松野市長にインタビューを申込みましたところ、予算編成の真最中にも関わらず、心安く応じてくださいました。

インタビューの最中、今後は何かと発想の転換が必要と語られていた事が大変印象的でした。

又、女性に対する期待は大きく、街づくりには絶対かせかない事などもお話しいたいただき、私たち編集委員一同も今後の励みとなり力づけをいただきました。

2時間弱に亘り、和気あいあいとした時間をもつことが出来ました。

改めて市長にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



ア・ライク
VOL.11
2013年3月

発行 岩見沢市企画財政部企画室

〒068-8686 岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号 ☎0126-23-4111 E-mail: danjo@i-hamanasu.jp

企画・編集 岩見沢市男女共同参画情報誌編集委員会(いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議)